

報告・協議2

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」有識者会議（第1回）
の概要について

このことについて、別紙のとおり報告します。

令和6年12月23日

広島県教育委員会教育長 篠田 智志

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画」有識者会議（第1回）の概要について

1 第1回有識者会議の概要

日 時：令和6年12月4日（水）14時～16時

場 所：広島県庁東館4階 教育委員会室（オンラインによるハイブリッド開催）

参 加 者：教育やまちづくり、産業等の分野に関する有識者7名

主な議題：実施計画の策定に当たっての方向性等について

2 第1回有識者会議における主な意見

- （資料12において実施計画の検討に当たってのキーワード案として「探究的な学び」、「実践的な学び」、「多様な学び」の3つが示されており、）各キーワードは広島県教育委員会がこれまで伝統的に大切にしてきたものになっているが、10年後を見据えたときには「イノベティブ」という要素もあった方がよいのではないかと。
- キーワードに10年後においても普遍的な要素を入れることも重要で、県立高等学校の強みである地域との繋がりを普遍的な価値として大きく位置づけるべきではないかと。
- 現在のキーワードはどの都道府県においても共通のものに感じるもので、広島県らしい言葉も入ってくるとよいのではないかと。
- 基本計画（第2期）からキーワードを通して実施計画の内容に繋がっていくという単線的な形になっているが、実際には、各キーワードが各取組の重心にはなるものの、重なり合う部分に位置づく内容も出てくるのではないかと。
- 高校生を中心とした視点から実施計画を表現するなど、主体である子供たちが見てわくわくするようなものにしてほしい。
- まちづくりの中で、地域に高校生が存在しているということは大切なので、県立高等学校は地域における高校生の役割を見据えた配置が必要ではないかと。その際、授業や部活動において、人数が少ないことによる不利な面を軽減する支援やアイデアの実現が必要だと考える。
- 10年後には、現時点における最先端の技術等は既に古くなっているので、高校生段階では、例えば、物の見方や考え方、多様な他者と協働する力のような基礎リテラシーと新技術への対応力の育成を並行して進めるべきではないかと。
- 県立、私立、市立などの高校がある中で、県立高等学校がどういう役割を果たすべきなのかという視点も必要ではないかと。
- 中学校等卒業後の進路状況についても踏まえる必要がある。
- 学校教育を社会教育や地域活動等に繋いでいく設計が必要ではないかと。
- 生徒が将来的にどのように社会的な役割を果たしていくのか、そして、社会的な役割を果たすことを通じて誇りを持ったり、やりがいや生きがいを感じられたりするように、働くということを肯定的に捉えられるキャリア教育を進めていくことが必要ではないかと。
- 税金で様々なことを賄わなければいけないという現実的な問題もあるので、今後、予算等に関する議論も必要になってくるのではないかと。

3 今後のスケジュール（予定）

	R6 年度							R7 年度								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
内容	実施計画（素案）作成							★	実施計画（最終案）作成							★
								素案公表								最終案公表
			● 第1回 有識者 会議 【今回】	● 第2回 有識者 会議	● 第3回 有識者 会議			● 第4回 有識者 会議		● 第5回 有識者 会議	● 第6回 有識者 会議					

「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画（仮称）」の策定に向けた 有識者会議（第1回） 次第

令和6年12月4日（水）14:00～16:00

広島県庁 東館 4階 教育委員会室

1 開会

(1) 開会挨拶

(2) 自己紹介

2 説明

(1) 県立高等学校を取り巻く状況について

(2) 「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の概要について

3 意見交換

テーマ：実施計画（仮称）策定に当たっての方向性等について

4 閉会

(1) 閉会挨拶

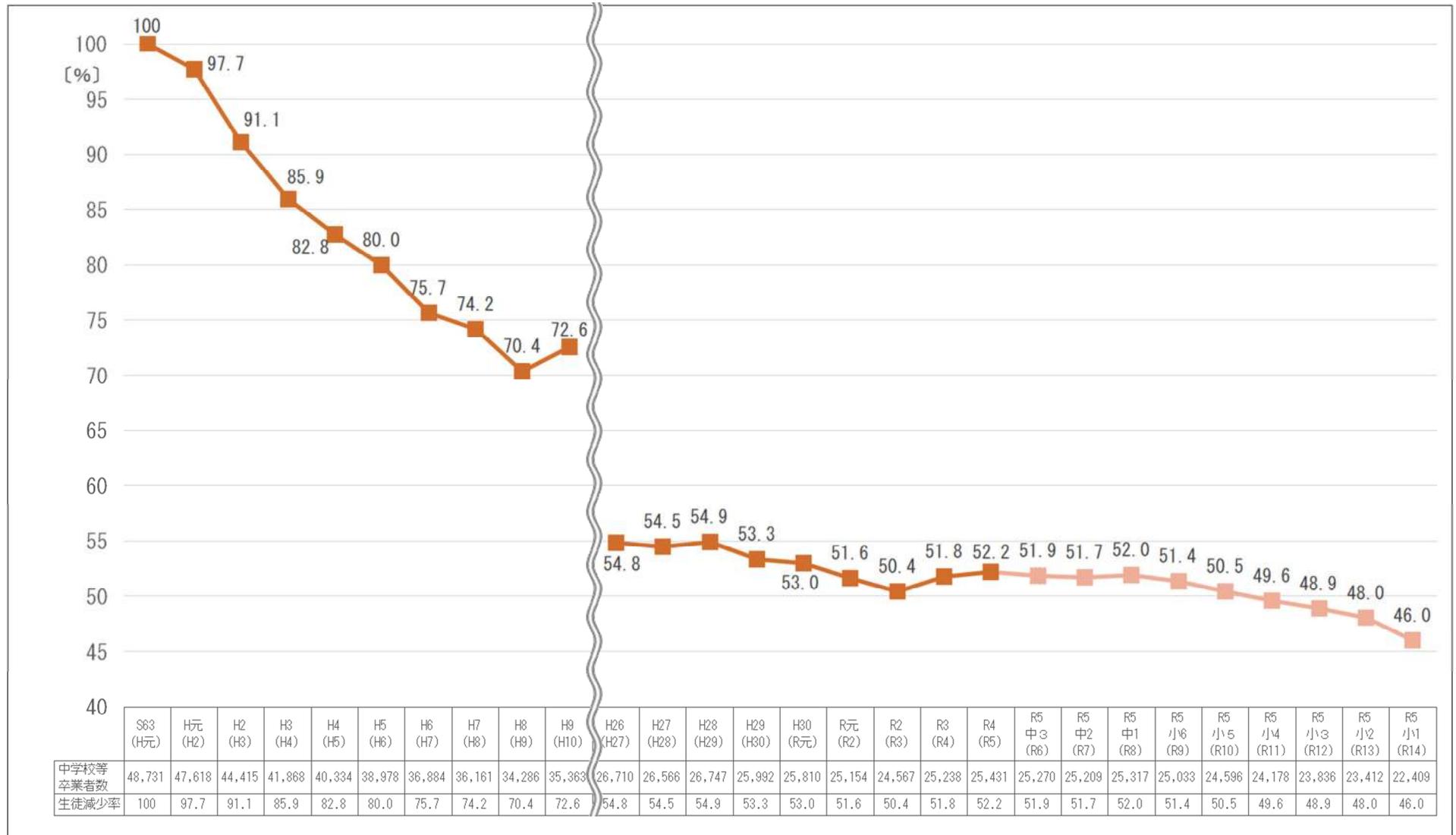
(2) 事務連絡

**「今後の県立高等学校の在り方に係る実施計画（仮称）」の策定に向けた
有識者会議（第1回）**

資料目次

資料1	広島県における中学校等卒業生数の推移	1
資料2	県立高等学校（全日制課程）の状況	2
資料3	公立高等学校（定時制課程・通信制課程等）の状況	3
資料4	広島県高等学校等配置図（令和6年度）	4
資料5	公立高等学校（全日制課程）の募集学級数	5
資料6	中学校等卒業生数と公立高等学校（全日制課程）本校数の推移（設置数）	6
資料7	生徒急増期に新設等された学校	7
資料8	公立高等学校（全日制課程・本校）学科別募集定員及び定員割れの推移	8
資料9	定時制課程・通信制課程への入学者状況	9
資料10	広島県公立高等学校の進路状況（公立学校基本数による）	10
資料11	「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の概要	11
資料12	実施計画（仮称）の策定に当たっての方向性等について	12

広島県における中学校等卒業生数の推移（昭和 63 年度=100 としたときの割合）



※義務教育学校及び広島叡智学園中学校を含む。広島市立広島中等教育学校は除く。

※（ ）内は高等学校入学年度を示す。

※R5 以降は、R5 時点の中学校等・小学校における、各学年の在籍者数。

県立高等学校（全日制課程）の状況（令和6年度設置ベース）

	学科	区分	学校数	学校名	
本校	普通科	中高一貫教育校	6	(併設型) 広島、広島叡智学園、三次 (連携型) 加計、御調、賀茂北 ※芸北分校は分校に計上	
		中高一貫教育校 専門学科併置校	1	(連携型) 油木	
		コース設置校	5	広島国泰寺、尾道東、庄原格致、大門、祇園北	
		専門学科併置校	8	広島皆実、海田、竹原、世羅、黒瀬、安芸府中 神辺旭、府中東	
		その他	34	別記のとおり	
	小 計 (普通科)			54	
	専門学科 (単科校等)	農業科	2	西条農業、庄原実業	
		工業科	4	広島工業、福山工業、呉工業、宮島工業	
		商業科	4	尾道商業、広島商業、呉商業、福山商業	
		工業・商業・家庭科	1	総合技術	
		農業・家庭科	1	沼南	
	小 計 (専門学科)			12	
総合学科			10	広島観音、尾道北、福山誠之館、大竹、松永、 高陽東、三次青陵、神辺、戸手、因島	
探究科 (総合学科)	専門学科併置	1	吉田		
分校	普通科	中高一貫教育校	1	(連携型) 芸北分校	
合 計			78		

普通科（その他）34の内訳

広、呉宮原、呉三津田、三原、三原東、福山葦陽、音戸、廿日市、佐伯、大柿、可部、千代田、向原、賀茂、忠海、府中、上下、東城、瀬戸田、日彰館、五日市、河内、安古市、福山明王台、高陽、熊野、広島井口、豊田、安西、廿日市西、湯来南、安芸南、西城紫水、大崎海星

専門学科併置校の設置学科の内容

学校名	学科
広島皆実	普通科、看護科、体育科
海田	普通科、家庭科
吉田	探究科、農業科
竹原	普通科、商業科
世羅	普通科、農業科、家庭科
油木	普通科、農業科
黒瀬	普通科、福祉科
安芸府中	普通科、国際科
神辺旭	普通科、体育科
府中東	普通科、工業科

公立高等学校（定時制課程・通信制課程等）の状況
（令和6年度設置ベース）

1 定時制課程

学区	学校名	学科	昼夜別	入学定員 (学級)
広島	廿日市	普通	夜間	1
	可部	普通	夜間	1
	宮島工業	機械	夜間	1
呉・賀茂	賀茂	普通	夜間	1
	呉工業	機械	夜間	1
		電気		1
		キャリアデザイン		1
尾三	三原	普通	午前・夜間	2
	因島	普通	夜間	1
福山	福山誠之館	普通	夜間	1
	福山葦陽	普通	午前	1
	松永	普通	夜間	1
	福山工業	機械	夜間	1
		電気		1
芦品まなび学園	普通	午前・午後・夜間	3	
備北	三次	普通	夜間	1
県立計（13校）				18
	尾道南	普通	夜間	1
市立計（1校）				1
合計（14校）				19

2 通信制課程

学校名	学科	入学定員 (人)
東	普通	300
合計		300

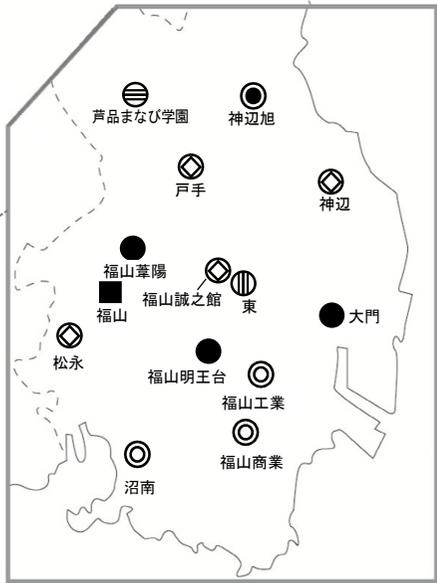
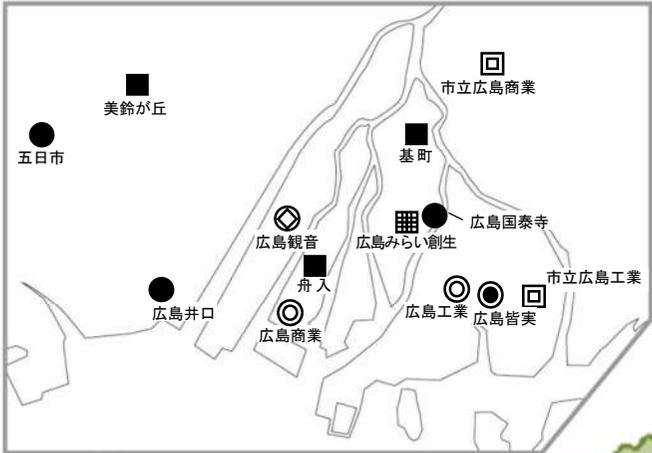
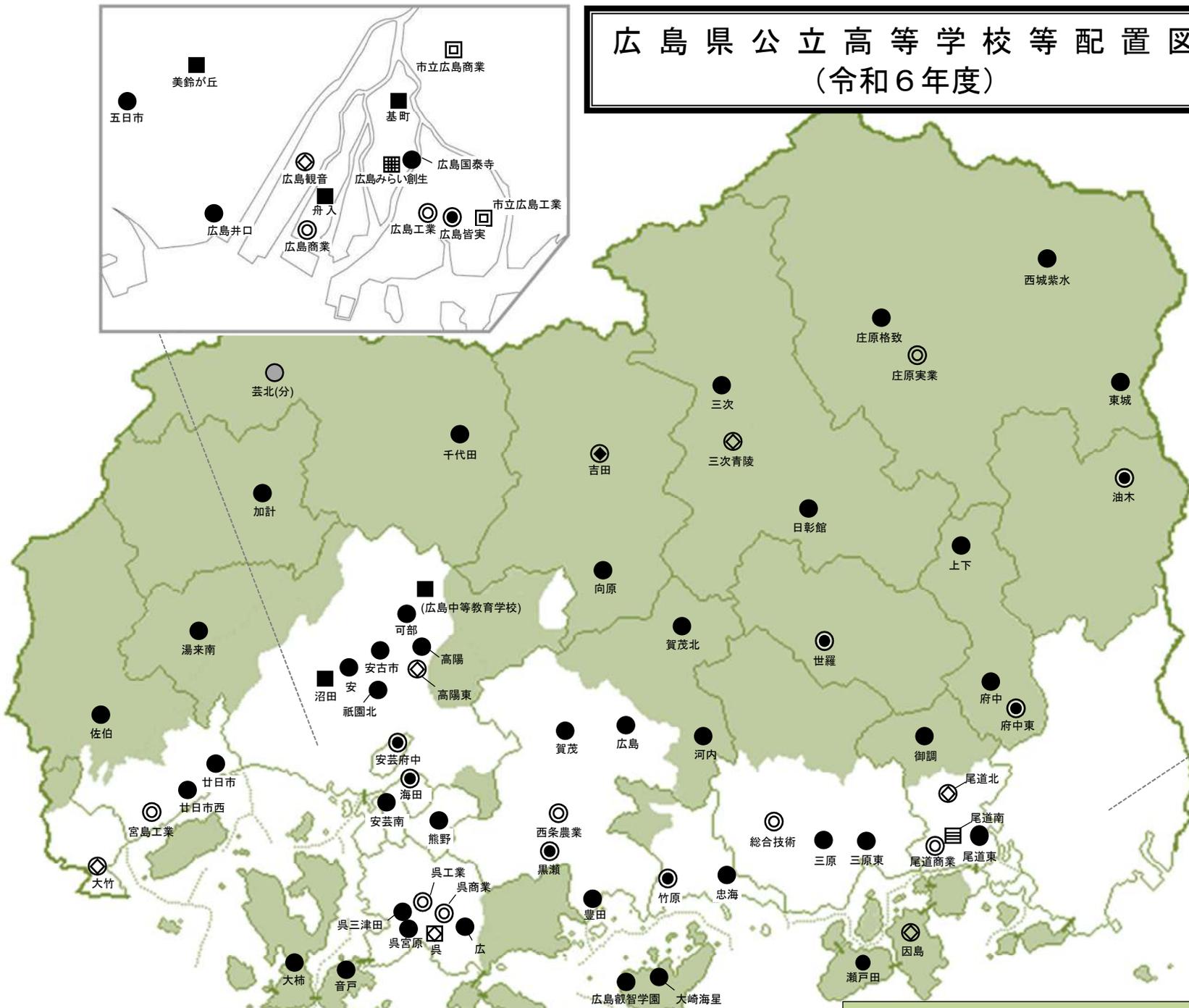
3 フレキシブル課程

学校名	学科	コース	入学定員 (人)
広島みらい創生	キャリアデザイン	平日登校	240
		通信教育	400
合計			640

広島県公立高等学校等配置図 (令和6年度)

凡 例

- ■ 県立 市立 普通科
- ◎ □ 専門学科
- ◎ 普通科、専門学科等を併置
- ◎□ 総合学科
- ◎□ 総合学科、専門学科を併置
- 分校（普通科）
- ◎ 定時制課程単独校
- ◎ 通信制課程
- ◎ フレキシブル課程



※ 網掛けのエリアは中山間地域を表す。

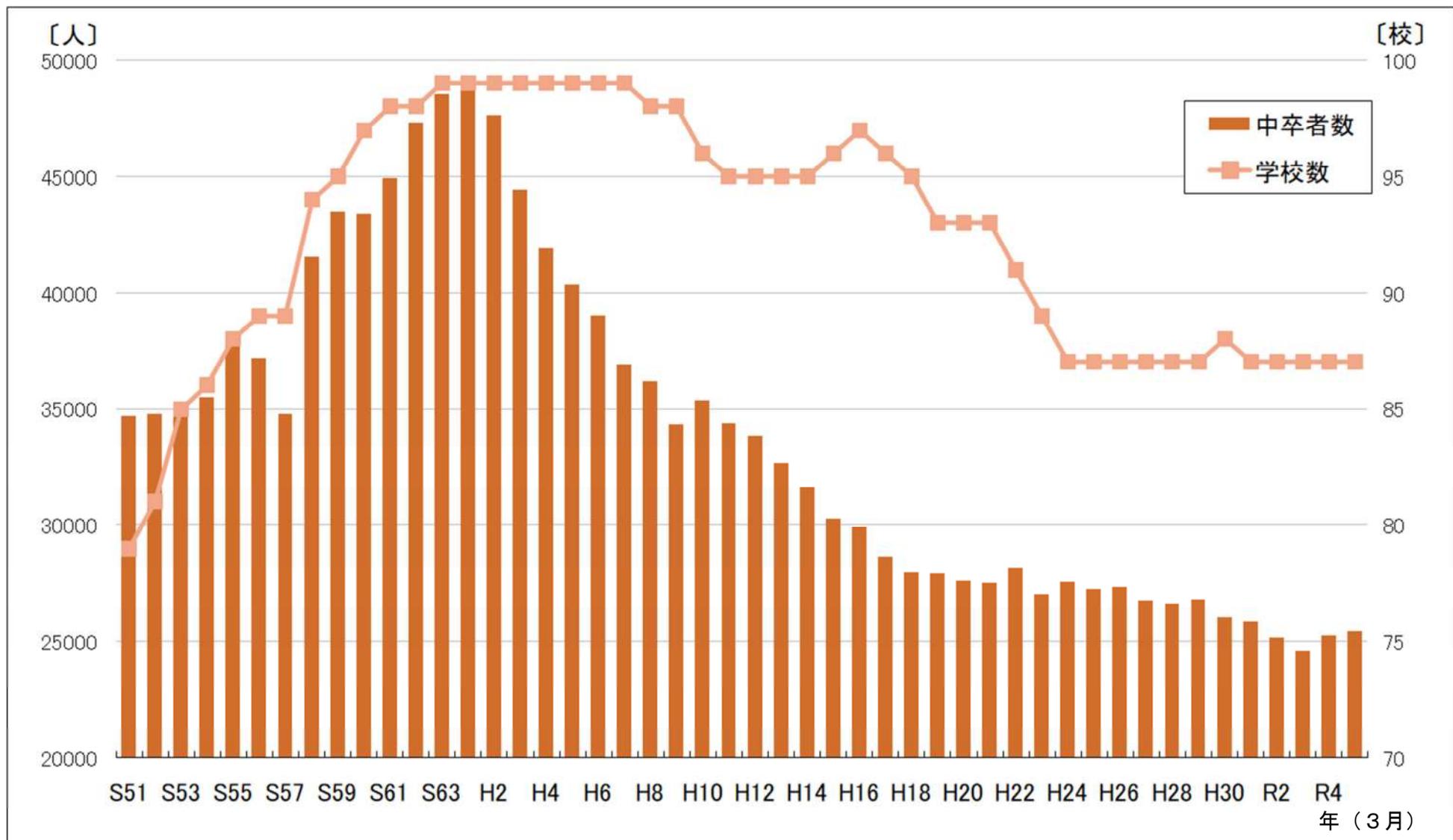
公立高等学校（全日制課程）の募集学級数（令和6年度入学定員ベース）

旧6学区	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	9学級	計	
芸北	加計(普) 芸北(分)(普) 向原(普)	千代田(普2)		吉田(探3、農1)						5校	
広島	湯来南(普) 佐伯(普)	安西(普2)		熊野(普4) 大竹(総4) 廿日市西(普4)	安芸南(普5)	可部(普6) 高陽(普6) 高陽東(総6) 五日市(普6) 安芸府中(普5、国1)	広島観音(総7) 廿日市(普7) 宮島工業(工7) 海田(普5、家2)	広島国泰寺(普8[理2]) 広島商業(商8) 広島皆実(普6、看1、体1) 広島工業(工8) 広島井口(普8) 安古市(普8) 祇園北(普8[理1])	◎市立舟入(普8[国1]) ◎市立沼田(普8[体2])	◎市立基町(普9[創1])	29校
呉・賀茂	音戸(普) 賀茂北(普) 豊田(普) 大柿(普)	河内(普2)	呉工業(工3) 黒瀬(普2、福1)	呉商業(商4)	広(普5) 呉宮原(普5) 呉三津田(普5)	広島(普6) 賀茂(普6)	西条農業(農7)				15校
尾三	瀬戸田(普) 大崎海星(普)	竹原(普1、商1) 忠海(普2) 三原東(普2) 御調(普2) 因島(総2) 広島叡智学園(普2)		世羅(普2、家1、農1) 尾道東(普4[国1]) 三原(普4)	尾道北(総5) 尾道商業(商5)	総合技術(工3、商1、家2)				14校	
福山	上下(普)	油木(普1、農1) 沼南(家1、農1)		福山商業(商4) 松永(総4) 府中東(普2、工2)	戸手(総5) 神辺(総5) 府中(普5)	大門(普6[理1]) 神辺旭(普5、体1)	福山明王台(普7) 福山工業(工7)	福山誠之館(総8) 福山葦陽(普8)			16校
備北	東城(普) 西城紫水(普)	日彰館(普2) 三次青陵(総2)	庄原格致(普3[医教1])	庄原実業(農4)	三次(普5)					7校	
計	14	13	3	13	11	13	7	11	1	86校	

※ [] : 普通科コースの学級数（内数）

※ ◎ : 市立高校

中学校等卒業生数と公立高等学校（全日制課程）本校数の推移（設置数）



※義務教育学校を含み、中等教育学校を除く。

生徒急増期に新設等された学校

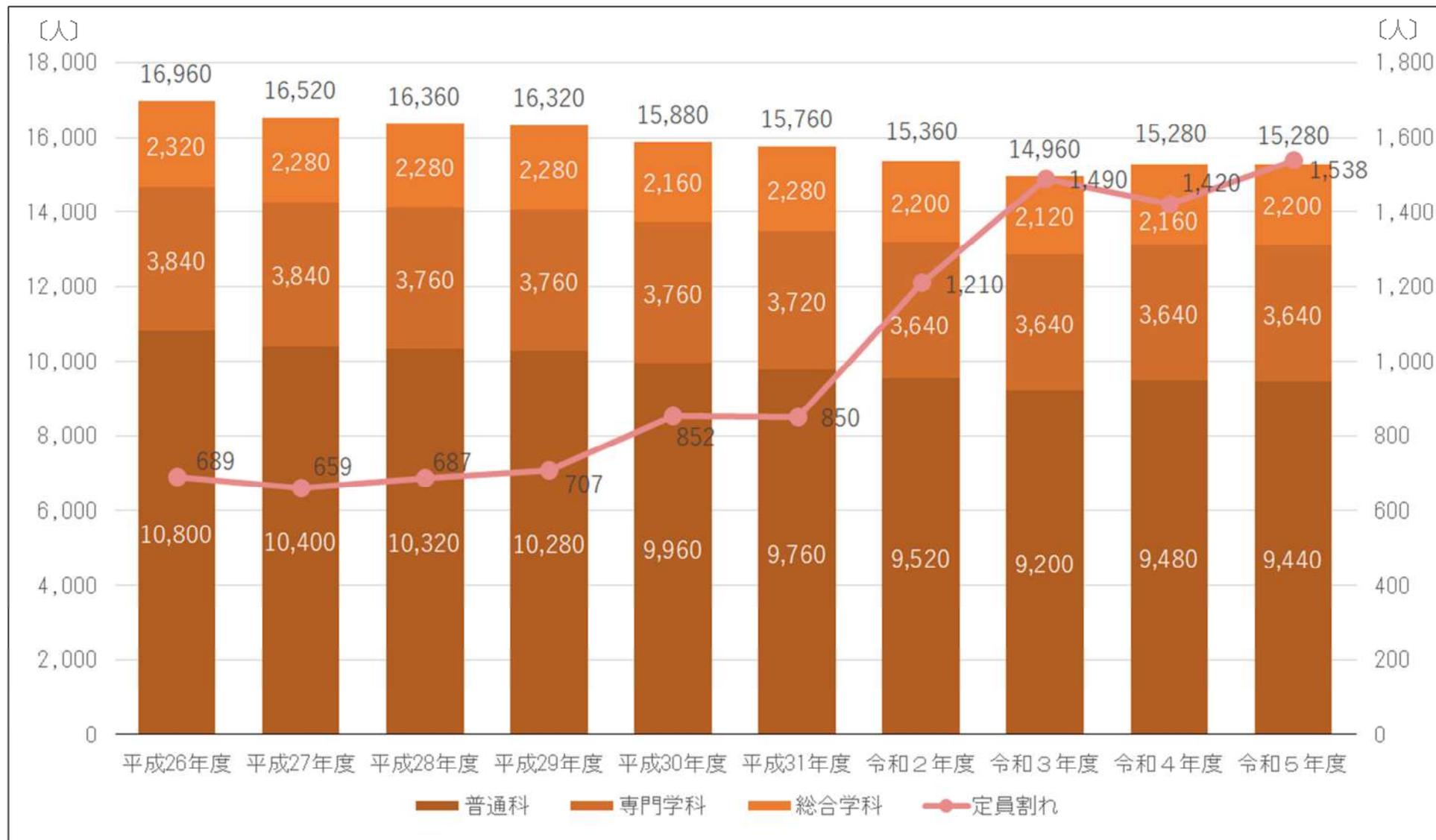
【生徒急増期 S45～S63】計 30 校増設（新設：15 校、本校化：11 校、県移管：4 校）

年度	区分	学校名	年度	区分	学校名
S46	本校化	黒瀬	S53	本校化	豊田
S47	本校化	江田島	S53	本校化	豊
S47	本校化	自彊	S53	本校化	久井
S48	本校化	三和	S54	新設	安西
S49	新設	安芸	S55	新設	安芸府中
S49	新設	五日市	S55	新設	神辺旭
S49	県移管	河内	S55	県移管	府中東
S50	新設	安古市	S56	本校化	大和
S50	新設	大門	S58	新設	廿日市西
S50	県移管	福山明王台	S58	新設	祇園北
S50	県移管	至誠	S58	新設	高陽東
S50	本校化	倉橋	S58	新設	呉昭和
S52	新設	高陽	S58	本校化	高宮
S52	新設	熊野	S60	本校化	湯来南
S53	新設	広島井口	S61	新設	安芸南

※網掛けは令和 5 年度時点で募集停止している学校（合計 11 校）

※「新設」には、他に、広島市立高等学校 3 校（安佐北(S59)、沼田(S60)、美鈴が丘(S63)）がある。

公立高等学校（全日制課程・本校）学科別募集定員及び定員割れの推移



※広島叡智学園高等学校は除く。

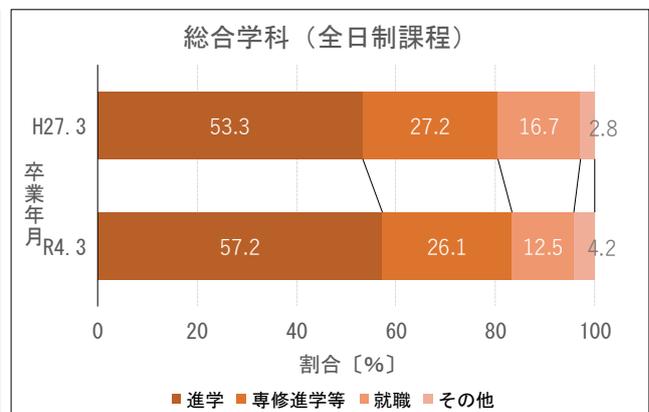
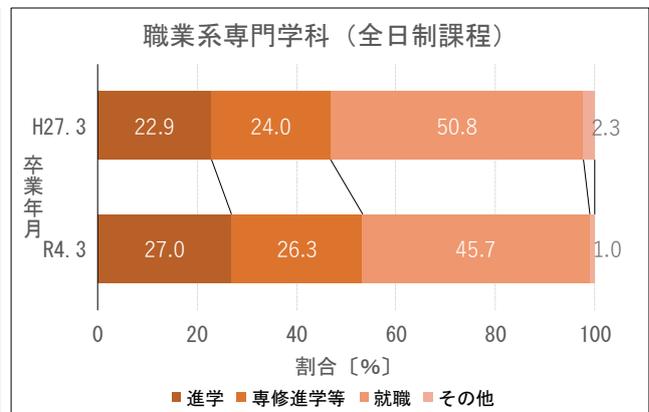
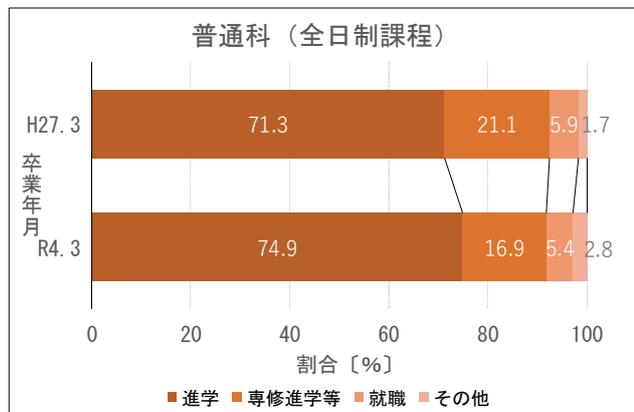
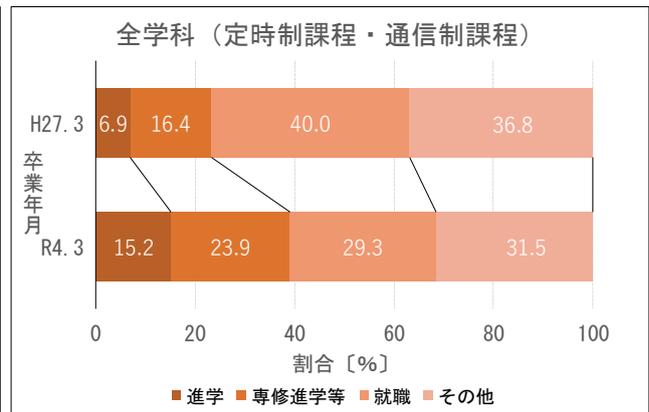
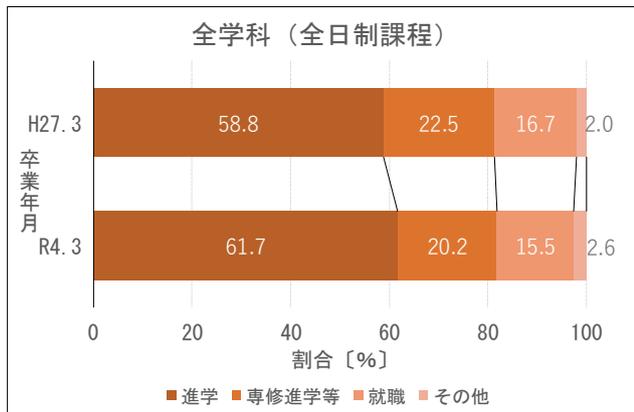
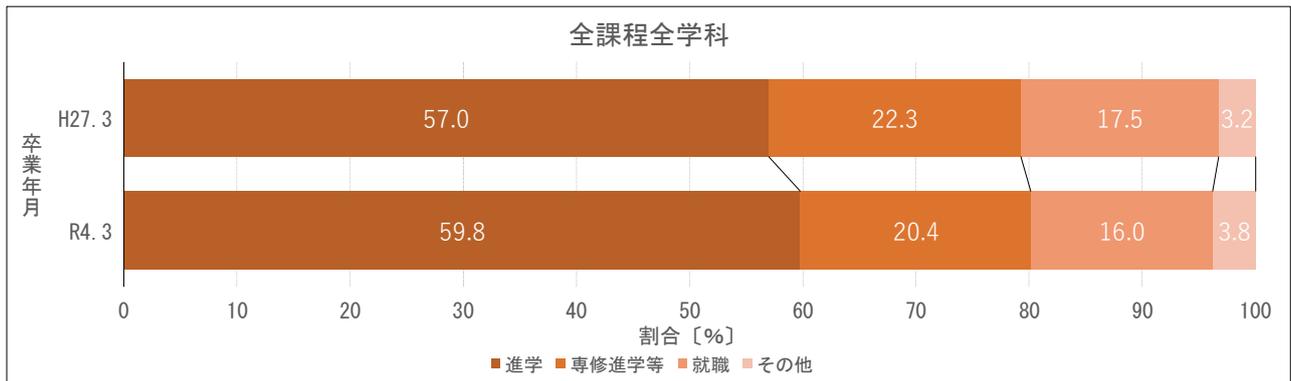
※入学者数には、県外中学校からの進学者を含み、帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜により入学した生徒を除く。

定時制課程・通信制課程への入学者状況



※広島県教育委員会調べ。

広島県公立高等学校の進路状況（公立学校基本数による）



「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画（第2期）」の概要

県立高等学校教育の在り方

県立高等学校の役割

- 高等学校教育の普及及び機会均等の確保の観点から、全県的な視野に立って教育を提供する。
- 将来の中学校等卒業生数の推移を見据え、生徒の通学時間等を考慮しつつ、県内各地域にバランスよく配置する。

県立高等学校教育の目指す姿

— 生徒の学び —

未来に夢や希望を持ちながら学び、生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を身に付けています。

— 県立高等学校教育における人材育成 —

誰一人取り残さず、全ての生徒の可能性を引き出す教育活動の充実が図られるとともに、十分な教育効果をあげられる教育環境が整備されており、様々な分野で地域や広島、日本の成長・発展を担うことのできる人材や、世界を舞台に活躍できる人材など、多様な人材を育成しています。

重視する教育活動

- ①「主体的な学び」を促す教育活動の推進による、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成
 - 「基礎・基本」の徹底
 - 「主体的な学び」を促す教育活動
 - 夢や希望の実現に向けたキャリア教育の充実
- ②一人一人の多様な個性・能力を更に生かし、他者と協働しながら新たな価値を創造していくことができる力の育成
 - 多様な人材の育成
 - 「個別最適な学び」の推進
 - グローバル社会における多様な価値観の受容につながる取組の推進

目指す姿の実現に当たって留意すべき事項

- ①教職員の資質・能力の向上
- ②学校・家庭・地域が連携した教育の推進
- ③多様なニーズに応じた教育機会の提供
- ④教育環境の整備

県立高等学校の 課程・学科等の在り方

課程・学科等		現状・課題等	取組の方向性
全日制課程	普通教育を主とする学科	○多くの生徒がいわゆる文系・理系に分かれ、2年次以降、特定の教科について十分に学習しない傾向があることが指摘されている。 ○大学等において学びを深めたり、実社会で様々な課題に接したりする際に必要となる力を身に付けるために、探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学び・実践的な学びを推進していく必要がある。	○学際領域に関する学科、地域社会に関する学科等の設置を検討する。 ○既設のコースを普通科以外の普通教育を主とする学科や普通系専門学科等に改編することを検討する。
	専門教育を主とする学科	職業系	○AI/IoT、5G等の技術革新の進展等に対応するための学科改編を検討する。 ○普通科と職業系専門学科を併設する学校を総合学科に改編することを検討する。
		普通系	○生徒の多様な可能性を伸ばすために、高等教育機関等と連携・協働するなどして、高度で特色ある教育を一層推進していく必要がある。 ○DXや地球温暖化と関連して、今後、デジタルやグリーン（脱炭素）をはじめとする成長分野において活躍する人材の育成が求められている。 ○高等学校段階において、理数分野の素養などを身に付けた人材を育成していく必要がある
総合学科	○近年の技術革新に伴い、産業界では特定の専門分野のみならず様々な分野に関する知識・技術が求められるようになってきている。 ○多様な分野に関する知識及び技能や、異分野と協働する姿勢といった資質・能力を育成する教育活動を一層推進していく必要がある。	○普通教育を主とする学科や専門教育を主とする学科を設置する学校を総合学科に改編することを検討する。	
定時制課程・通信制課程		○自分のペースで学ぶことのできる通信制課程に入学する生徒数がこの10年間で約2倍になっている。 ○生徒が人間関係を築きながら、自己の良さや可能性を認識し、多様な人々と協働する機会を、デジタル技術も活用しながら、より一層充実させていく必要がある。	○フレキシブルな学びを提供する学校を新たに設置することを検討する。
総合型高等学校		○職業人に求められる専門的な知識及び技術・技能が拡大化・高度化している。 ○各専門分野の基礎・基本を身に付けながらも、他の分野について広く総合的に学習し、多様化・複雑化する社会の実状に対応できる幅広い知識及び技術・技能を兼ね備えた人材を育成していく必要がある。	○新たな総合型高等学校の設置を検討する。
中高一貫教育校		○引き続き、連携先の中学校や、地域、企業、高等教育機関等の外部機関と連携・協働することによる教育活動の一層の魅力化を進めていく必要がある。	○教育活動の一層の特色化・魅力化を図る。

県立高等学校の 配置及び規模の在り方

基本的な考え方	取組の方向性	取組に関する留意事項
<ol style="list-style-type: none"> ①学校の配置 全県的な視野に立ち、地域のニーズや生徒・保護者の希望等に応えることができる学校、課程及び学科等を適正に配置する。 ②学校の規模 1学年6学級を念頭におきつつ、中山間地域については1学年2～6学級の範囲内を、中山間地域以外の地域については1学年4～8学級の範囲内を基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○公立高等学校への入学状況を踏まえるとともに、公共交通機関の状況や生徒の通学時間等を勘案し、学校、課程、学科等を配置する。 ○1学年3学級以下の学校については、授業交流等による学校間の連携や地域と連携した特色づくり等の活性化を図る。 ○1学年1学級規模の全日制高等学校について、2年連続して「新入学生徒数が入学定員の2分の1（20人）未満又は全校生徒数が収容定員の2分の1（60人）未満」となった学校については、協議会の意見を聴いた上で、地理的条件を考慮し、再編整備を検討する。 ○中山間地域以外の地域に所在する県立高等学校については、学校の規模によらず、再編整備を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治体内から県立高等学校が無くなることのないよう留意する。 ○統廃合などの再編整備を行う場合は、統合先の学校や新設する学校について、特色ある学科の設置や、施設・設備の更新、教職員配置の拡充等の検討を行う。 ○再編整備を行うことにより、高等学校への通学が困難となる地域が生じる場合には、寄宿舎の整備など、生徒の高等学校教育を受ける機会の確保に向けた検討を行う。

実施計画（仮称）策定に当たっての方向性等について

第1回

第2回以降

基本計画（第2期）

課程・学科等の在り方 (取組の方向性)	
全日制	普通教育を主とする学科 ○学際領域に関する学科、地域社会に関する学科等の設置を検討する。 ○既設のコースを普通科以外の普通教育を主とする学科や普通系専門学科等に改編することを検討する。
	中高一貫教育校 ○教育活動の一層の特色化・魅力化を図る。
専門教育を主とする学科	職業系 ○AI/IoT、5G等の技術革新の進展等に対応するための学科改編を検討する。 ○普通科と職業系専門学科を併設する学校を総合学科に改編することを検討する。
	普通系 ○既設の普通系専門学科を学際領域に関する学科や地域社会に関する学科に改編することを検討する。 ○デジタル・理数分野の素養などを身に付ける学びに重点的に取り組む学科の設置を検討する。
総合学科	○普通教育を主とする学科や専門教育を主とする学科を設置する学校を総合学科に改編することを検討する。
総合型高等学校	○新たな総合型高等学校の設置を検討する。
定時制課程・通信制課程	○フレキシブルな学びを提供する学校を新たに設置することを検討する。

県立高等学校教育の目指す姿

キーワード（案）

“探究的な学び”

- 文理横断的な学びの推進
 - ・STEAM教育
- 学科・コース等における学びの更なる魅力化
- 協働体制の構築
 - ・高等教育機関・地域の関係機関等との連携・協働

“実践的な学び”

- キャリア教育の充実
 - ・自らの進路希望に応じた学びの主体的な選択
 - ・自己の将来の生き方や進路についての自覚を深める学習の充実
- 実践的・体験的な学習活動の推進
 - ・地域産業界や、他校・他学科との連携

“多様な学び”

- 多様な背景を持つ生徒のニーズへの対応
 - ・自分のペースで学びたい生徒
 - ・外国籍の生徒
 - ・特別な配慮を必要とする生徒
- 自立した学習者の育成
 - ・人間関係の構築
 - ・自己の良さや可能性の認識
 - ・多様な人々との協働

実施計画（仮称）

全日制課程

普通教育を主とする学科

中高一貫教育校

普通科

専門教育を主とする学科

職業系専門学科

農業科

工業科

商業科

家庭科

看護科

福祉科

普通系専門学科

国際科

体育科

総合学科

総合学科

探究科

総合型高等学校

工業科

商業科

家庭科

定時制課程

普通科

工業科

キャリアデザイン科

通信制課程

10年後の県立高等学校の姿